



大阪プロバスクラブ

会報 第403号

2025年4月2日発行

Monthly Bulletin of

The Probus Club of Osaka

- 例会会場：ホテルモントレ大阪 06-6458-7111
 例会日：2022年7月より毎月第2水曜日 12時～14時
 ○創立 2001（平成13）年7月9日創立記念式 7月16日
 ○スポンサークラブ：箕面千里中央ロータリークラブ
 ○友好クラブ：箕面ロータリークラブ
 ○会長：山下恵司 ○幹事：川端崇且 Tel：090-2702-7212
 ○事務局：（幹事宅）〒562-0044 箕面市半町 2-5-23
 ○会報担当：西宮富夫 pxi06603@nifty.com
 ○【検索】大阪プロバスクラブ会報
 ○【検索】全日本プロバス協議会
 （R6年8月の第11回総会で決定された新体制）
 会長 馬場康博、幹事長 中田雅昭、会計 佐々木浩一
 ○【検索】PROBUS Global→最新ニュースレター

PROBUS Global ニュースレター3月号：伊藤健一氏（PGコーディネーター、東京多摩プロバスクラブ）より受領
Richard Furlong 会長所感、(カナダ、レイクフィールドPC)、(オーストラリア、クイーンズランド州 GeoffCrane)、(インドの最新情報)、(フランス・ベルギーのProbus)、PG Zoom ミーティング (参加者：カナダ、オーストラリア、インド、南アフリカ、ベルギー、イギリス、日本など)、他

- 【検索】日本のプロバスクラブ・関西 Blog 版：
 R7年3月上旬～7年3月下旬までの更新分（順不同）

クラブ	会報	記事一部
旭川	会報 236号	2月9日旭川「雪の降る街を」音楽祭鑑賞（大雪クリスタルホール）、例会：クリスタルホールレストラン（協賛金の贈呈）、他
東京八王子	プロバスだより 352号	卓話「お助け隊ってなに」（土屋三千代）、地域奉仕委員会（持田委員長）、八王子プロバス 30周年記念事業（持田準備委員長）、他
東京多摩	プロバスニュース 116号	相撲部屋の餅つき大会に招かれて（小林勉会長）、第3回 VITA ヴィータふれあいまつり（片倉満会員）、早春のバスツアー、他
大阪	会報 第402号	近況報告「和歌山の海南で買った梅の粒を飲んだら体調がよくなった」浅井良佑会員、同「赤穂の大石神社に行ってきました」西宮富夫会員、他

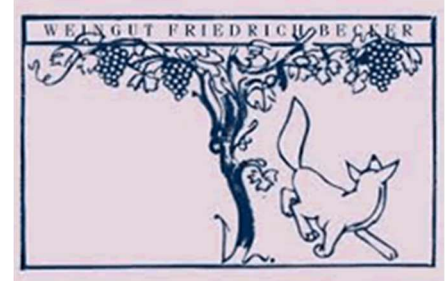
今回 第404回 観桜会 2025年4月2日（水）
 会場：梅田 SKY ビル 39階 燦宮 12：00～14：00

- 大阪プロバスの歌（作詞：渡辺孟 補詩：田村徳郎）
- ① プロバスクラブへ集まろう 気の合う仲間とお昼時
元気に歌おう会の歌 第二の人生また楽し
 - ② プロバスクラブに集まって 優しく気軽に話そうよ
見せたい自慢の得意技 遊びのプランもまた楽し
 - ③ プロバスクラブに集まれば 高まる奉仕の心意気
世界に広がる和の願い 明日も愉快地に生き抜こう

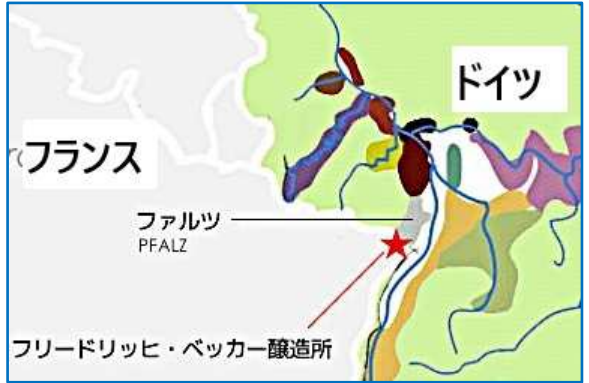
- 『ちょうちょう』（作詞：野村秋足 作曲：スペイン民謡）
 ちょうちょう ちょうちょう 葉の葉にとまれ
 葉の葉に飽（あ）いたら 桜にとまれ
 桜の花の 花から花へ とまれよ あそべ
 あそべよ とまれ

前回 第403回 通常例会 2025年3月12日（水）
 会場：ホテルモントレ大阪 12：00～14：00

- ◎通常例会
 ○司会進行：伊丹谷五郎会員
 （伊丹谷会員より次回移動例会の会場の梅田 sky ビルについて発言があり、委員会報告関連の記事にした。）
 ○ソング：吉川栄子会員 ●『どこかで春が』
 ○ゲスト紹介：熊本國勝様、佐藤真鐵様
 ●食事タイム 乾杯：川端崇且会員
ワイン名：フリードリッヒ・ベッカー ヴィザヴィー オーセロワ 2020 Friedrich Becker VIS A VIS Auxerrois
 （文・画像ともワイングロッサリー記事「フリードリッヒ・ベッカー ヴィザヴィー オーセロワ 2020」より引用）



ワインラベル **ブドウとキツネの童話の挿絵**
生産者：フリードリッヒ・ベッカー-Friedrich Becker
 フランス語で「VIS A VIS=向かい合って」というキュヴェ名は、ドイツ・フランス領両方に畑を所有しているベッカーさんらしいネーミング。名前通り、向かい合った両国のオーセロワを使用して造られます。
生産地：醸造所のあるシュヴァイゲン村は、ファルツ（上の地図の灰色の地域）の最南端に位置します。こちらの醸造所の面白いところは、**所有している畑がフランスとの国境を跨いでいる**ことです。フランスとの国境線に位置するがゆえに、歴史上何度も戦火に見舞われた地域でもあります。



「ブドウとキツネ」の童話のラベル：イソップ物語「ブドウとキツネ」の童話の挿絵が使用されています。
 『キツネが、たわわに実ったおいしいそうなブドウを見つめる。食べようとして跳び上がるが、ブドウはみな高い所にあり届かない。何度跳んでも届かず、キツネは怒りと悔しさで、「どうせこんなブドウは、酸っぱくてまずいだろう。誰が食べてやるものか。」と捨て台詞を残して去る。』

○山下恵司会長挨拶：会長挨拶の中で以下の昭和100年関係の資料が提供された。(以下、Wikipediaより引用)

●「昭和」の由来は、四書五経の一つ書経堯典の「百姓昭明、協和万邦」(百姓昭明にして、万邦を協和す)による。漢学者・吉田増蔵の考案。「昭和」が元号の候補になったのはこれが最初である。

★ひゃくせいしょうめい【百姓昭明】

民衆の職分や官僚の職務がはっきりして、世の中がよく治まってなごやかなこと。

注記：「百姓」は、民衆のことだが、ここでは民衆や官僚のこと。「ひゃくしょう」と読まない。「昭明」は、あきらかなさま、はっきりするさま。この語の後に続く「万邦を協和せしむ」の語句とともに、年号と天皇のおくり名の「昭和」のもとになった。

★きょうわばんぼう【協和万邦】

多くの国ぐにを協調させて、国内外がなごやかになること。

注記：「協和」は、なごやかに協調する。「万邦」は、多くの国ぐに。「万邦を協和せしむ」と読み下す。この語の前にある「百姓は昭明なり」の語句とともに、年号と天皇のおくり名の「昭和」のもとになった。

★(以下資料より)昭和元年の1925年から数えると2025年は「昭和100年」。各地でイベント開催が予定され、政府も記念事業の検討をするなど盛り上がりを見せそう。日本の元号は「大化」に始まり、令和まで248もの元号が使われている。その時代を象徴する元号とはいったいどのような願いを込めて制定されているのだろうか。最も長い元号である「昭和」。

(会報担当より)「昭和100年」は計算が楽。

昭和生まれの人は「昭和でいうと何年か」を考える人が多いと思う。今年は昭和100年なので経過年数の計算が簡単である。例えば、昭和に生まれたなら子ども昭和生まれだから、今年何歳かは100から生まれた年を引き算すればすぐ計算できる。これは結構重要なことと考える。

○川端嵩且幹事報告：例会後理事会開催、4月3日神戸北プロバスから観桜会のお誘いあり。

○親睦委員会：4月移動例会の進行状況報告あり。

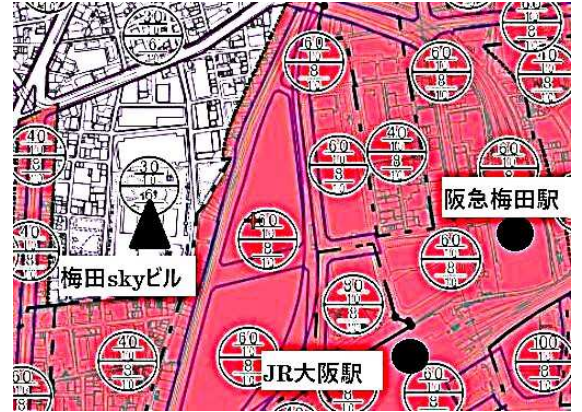
<会場紹介の伊丹谷会員のお話>

4月移動例会の会場の梅田skyビルは、私が34年前、建設プロジェクトリーダーに指名され、30代の若い人たちと造ったビルです。今年3月下旬には、最近亡くなられた設計者の原広司先生のしのぶ会(東京)にセキスイの社長と一緒に行ってきます。

もともとこの土地は工場や倉庫が多い地域で、梅田では「陰」の土地であり、若い人たちのアイデアに頼るしかなかった。そこで世界中の有名ビルをメンバーが手分けして見に行きました。一方、すでに設計はN設計に決まっていたのでアイデアを確認したところ、すでにあるビルとあまり変わらない案が示され、大変困った。安藤忠雄先生に相談したところアイデアコンペをしたらどうかと言われた。そこで4人(社)にアイデアコンペをしたのですが原広司先生から空中庭園のアイデアがあった。

今度移動例会で行くレストラン燦宮(さんぐう)がある39階はすでにテナントはA社に決まっていたのですが、色々事情があり断らざるを得なかった。しかし、スタッフからセキスイで中華料理店をやろうという意見が出た。そこで香港へ行き、香港の有名シェフを高給で雇うこととした。セキスイがレストランをやるとするのは初めてだった。

★梅田skyビルの都市計画(準工業地域、容積率300%)



(画像引用元：マップナビおおさかより引用)

梅田skyビル(新梅田シティの一部)は現在の大阪市都市計画では工場や倉庫が建つ準工業地域とされ、容積率300%の地域。JR貨物線が西側と東側を区切り、容積率も東側600%、西側300%。現在進行中の貨物ヤードの再開発でIR貨物線は地下化し、区切りがなくなるので、西側も商業地域化する可能性もある。

★梅田スカイビル(以下、Wikipediaより引用)

梅田スカイビル(うめだスカイビル)は、1993年3月に完成した、大阪府大阪市北区大淀中の新梅田シティ内にある超高層ビルで、積水ハウスの本社ビルである。高級ホテルのウェスティンホテル大阪と共に新梅田シティを構成している。

概要：地上40階、地下2階、高さ約175.295メートルの超高層ビルで、世界初の連結型高層建築でもある。設計は原広司。京都駅ビルや札幌ドームなどの作品で知られる。その独特の形状から梅田のランドマークとなっている。1990年6月に着工し、1993年3月に竣工した。デベロッパーにダイハツディーゼルおよび東芝が関わっているが、これは発動機製造(現・ダイハツ工業)および大阪電球(1930年東京電気に吸収。現・東芝)がいずれも1907年に当地で創業し、旧地権者だったことによる。

イギリスの出版社ドーリング・キンダースリーが選ぶ「TOP 20 BUILDINGS AROUND THE WORLD」の一つに、アテネのパルテノン神殿、ローマのコロッセオといった歴史的建造物と共に選出されるなど世界的に有名な建築物。



梅田skyビル

○出席報告：委員長より15名（ゲスト2名）との報告
○誕生日：（左）（3月）吉川栄子会員、（中央）山下恵司
会長、（右）（3月）西宮富夫会員



○OH-BOX 11名 21000円

- ★熊本國勝様：お久しぶりです。本日はお世話になります。
- ★山下恵司会員：特になし。
- ★伊丹谷五郎会員：特になし。
- ★川端崇且会員：熊本様、佐藤様ようこそ。ごゆっくり。
- ★田中浩三会員：もうすぐ春がやってきます。
- ★笠松幸一会員：遅くなったけれど春が近づいて来た様です。梅は2週間遅れの春ですか、先週は福寿草の満開を楽しんで来ました。桜はどうなるのかな？
- ★西宮富夫会員：本日は熊本様に卓話をお願いしております。熊本様どうぞよろしく願いいたします。
- ★永田慎一会員：桜のさく頃を楽しみに気をつけて頑張りますよ。
- ★野村尚子会員：卓話でお世話になる熊本さん、川端さんご友人の佐藤さん、大阪プロバスクラブにようこそおいでくださいました。どうか楽しんで下さい。
- ★浅山紀久子会員：楽しみの移動例会4月2日（水）皆様よろしく願いいたします。お元気でご出席されますようお待ち致しています。
- ★菊川哲子会員：桜の開花が楽しみです。私は桜のようにパッと散りたいです。

○卓話「100歳への挑戦」熊本國勝様

（会報担当：以下は熊本國勝様の確認を得た記事です。）



○初めに

今日は自慢話をさせていただきます。
先程のクラブの歌詞に“自慢話をしよう”とありました。自分の人生を話すことができる、自分をさらけ出すことができるクラブだと考えます。人の前で自分の話をすると元気が出る。聞いてくれる人がいると、しっかり

話そうとするからかもしれません。奈良プロバスクラブ設立時はしょっちゅう話しかけていました。プロバスクラブは高齢者に人と話せる機会を作っている大切なクラブと考えています。

○自己紹介など

私は1942年8月生れ、満82歳、100歳を目標にしています。亡き母が100歳の2か月前に亡くなりましたので、私は母の年齢を超えて、100歳まで生きたいと考えているのです。

宮崎県で生まれ、18歳で高校卒業後大阪へ就職、22歳で転職、39歳で独立しコンサルティング会社を設立し、74歳で廃業いたしました。ロータリーは42歳で入会し、70歳で退会しました。28年間ロータリーにいましたが、経験豊富な会員のお話を聞くことは財産となりました。ロータリーでは人と会うこと、人と話をするのが楽しみでした。ロータリーでは奉仕が自己成長に繋がっていました。

○健康の秘訣は 植物繊維をとる事、チヨイ活する事、つながりを持つこと

- ・100歳まで生きるためには、健康には注意しようと考えています。まず、食べ物ですが、基本、食事は妻の作ったものを食べることにしています。必ず全部食べることにしています。

- ・チヨイ活（運動）ですが、私は朝夕3km～4km歩くことにしています。ゴルフも好きですが、ゴルフができなくなったらどうするか。いずれ免許は返納せざるを得ませんが、車の免許がないとゴルフ場へいけません。そこでテニスを始めています。免許がなくなっても継続できる運動が重要です。

- ・つながりですが、ロータリーを退会した後、プロバスクラブがあることを知りました。当時兵庫県に42クラブ、大阪に1クラブ、京都に1クラブでした。大阪プロバスクラブの野村さんから、2012年8月のビアパーティへお誘いいただき、大変感動しました。招待客も合わせ、50名程がビアホールで大変盛り上がり、貴重な体験をしました。85歳の別所会員が会報作りのための写真やメモしていた光景を今でも思い出します。その時、プロバスクラブは高齢者に必要と思い、奈良ロータリークラブにスポンサーになっていただき、奈良プロバスクラブを設立しました。始めは20人ほどでしたがしょっちゅう声がけしていたら、すぐに40人規模になりました。

○いつもお話しする『旅人の話』です。

ある町がありました

一人の旅人がその町にやってきました

町の入り口の門のところ一人の老人が座っていました
旅人は聞きます

「おじいさん、この町はどんな町？」

おじいさんは聞きます

「あなたがいままでいた町はどんな町でしたか？」

旅人は答えました

「いやあ、前にいた町は嫌な人ばかりでろくな町ではなかったよ」

おじいさんは答えました

「そうですか、この町もあなたが前にいた町と同じです」

また別の日に旅人が来る
「おじいさん、この町はいったいどんな町ですか?」
おじいさんは開く。
「あなたがこの前にいた町どんな町でしたか?」
旅人は答えました。
「私が今までいた町はすばらしい町で、人々は親切であんなによい町はありませんでした」
おじいさんは答えました
「そうですか、この町もあなたがいた町と同じです」と答える。
これは逸話です。いい方はいろいろあるようですが、昔からある有名な話です。2人の旅人が来た町は同じなんです。結局、この逸話の言いたいことは何か。**環境というものは「その人の心が決める」ということ**です。我々が何のために学ぶのかというのは環境をよりよくつくるために学んでいるわけですね。結局、環境をつくるのはその人なんです。その人がその人の環境を決める。環境に左右されるのではなく、環境を作れる人間になりたいものです。
○主体性と想像力で会員を増やしましょう

○最後に安岡正篤先生の言葉を紹介します。
(以下『安岡正篤一日一言』 **心を養い生を養う** (安岡まさひろ 哲学者・思想家) (画像引用元: Wikipedia))



「環境が人を作るということに捉われてしまえば、人間は単なる物、単なる機械になってしまう。人は環境を作るからして、そこに人間の人間たるがある自由がある。即ち主体性、創造性がある。だから人物が偉大であればあるほど、立派な環境を作る。人間が出来ないと環境に支配される。

以上

●(つながりをつくる): 卓話後の笠松会員のコメント
私は奈良のハイキングクラブにも参加していますが、当クラブも含めて年間5人程度の新しいつながりをつくりたいと考えています。
●(環境をつくる): (会報担当:「環境をつくる」ということはわかりにくいので、わかりやすい例を挙げることとしました。宮本武蔵「五輪書」から、「戦いに勝つための環境づくり」のわかりやすい3例を引用しました。)
○宮本武蔵「五輪書」火の巻から「戦いに勝つ環境をつくる」例を3つ。
(以下、日本古典文学摘集五輪書火の巻(現代語訳)より)

★場の次第という事

場の立ち位置を見分けるのに、場において日を負うということがある。日を後ろにして構えるのである。もし所より日を後ろにすることができぬときは、右の脇へ日が来るようにすべし。座敷においても**灯を後ろ右脇にすること**、前に同じである。(中略)
夜でも敵の見える所では、火を後ろに負い、明かりを右脇にすること、前に同じと心得て構えるべきものである。敵を見下ろすといつて、**少しでも高い所に構えるように**心得るべし。座敷においては、上座を高い所と思うべし。さて戦になって敵を追い回す場合、己の左の方へ追い回す感

じで難所を敵の後ろにさせ、いずれにおいても難所へ追いかけることが肝要である。

★枕をおさえるという事

枕をおさえるとは(中略)兵法の勝負の道に限れば、人に己の身を翻弄されて後につくのはまずい。どうかして敵を自由に翻弄したいものである。したがって、(中略)兵法で敵の打つところを止め、突くところをおさえ、組むところをもぎ離しなどすることである
枕をおさえるというのは、(中略)敵の何事なりとも思考する兆しを、敵がそれをせぬうちに察知して、敵の打というつのうの字の頭をおさえて後すなわちつの字をさせぬ心が枕をおさえる心である

★とをこすという事

渡を越すというのは、たとえば、海を渡る際瀬戸すなわち流れの急な海の隘路という所もあり、または四十里・五十里もある長い海を越す所を渡というのである。(中略)その心を得て、人の世を渡るにも一大事にかけて渡を越すと思う心を持つべし。
兵法では、戦の中においても渡を越すことが肝要である。**敵の力量を捉え、己の達者を自覚し、その兵法の理を以て渡を越すことは腕利きの船が海路を越すのと同じであり、渡を越して後はまた安心できるのである。**(中略)よくよく吟味あるべし。

(会報担当:「場の次第」は江戸時代のことと考える。
「枕をおさえる」「とをこす」は現在の剣道、柔道はもちろん、サッカーなど戦うスポーツに通じると思われる。なお、当クラブにおいては会員の自慢話卓話、自主近況報告、OH-BOX コメントなどで例会の環境づくりをすれば、「上品、華やか、低コスト」な大阪プロバスクラブになると思うがどうでしょうか。)



宮本武蔵肖像画 (画像引用元: Wikipedia)



枯木鳴鶉図 (画像引用元: Wikipedia)

以上

次回 第405回 通常例会 2025年5月14日(水)
会場: ホテルモントレ大阪 12:00~14:00